

令和2年(2020年)8月吉日

名勝小金井桜の会 会員各位

名勝小金井桜の会
会長 小沼 廣和

令和2年度(2020年度)名勝小金井桜の会総会の開催について

世界中に蔓延する新型コロナウイルス感染が収まらない中、皆様方に於かれましては『移さない・移らない』の日常生活をご健勝にてお過ごしのこととお察し申し上げます。

例年ですと、4月には、名勝小金井桜の古木や後継樹の可憐な桜花を愛でながら真蔵院さんの駐車場をお借りし、「お花見散策&小金井桜花見の宴」を開催し新年度がスタートするはずでしたが、新型コロナウイルス感染の猛威にさらされ、『三密』を避ける意味から小金井公園の「桜まつり」と同様、中止にしました。

その後の各種イベントが軒並み中止となり、当会も総会並びに毎月の例会も開催がままならず半年が経過してしまいました。

役員と相談した結果、何らかの形で「総会」を開催し、今年度後半の活動を展開する必要がある。

第二波と思われるコロナ禍の中で『三密』を避ける意味から、一堂に会した総会ではなく「書面決議」等の手法により総会を開催してはどうかとの提案がありました。

誠に不本意ではありますが別添「書面決議」ハガキにより、総会を開催させていただきたいと思っております。

つきましては、ご郵送させていただいた「総会議案書」を精査いただき、ハガキの議決事項に○印並びにご意見等を記入の上、9月20日までに返信いただければと思います。

併せて、年会費2000円を9月20日までに手数料はかかりますが、下記方法のいずれかにより振り込みいただきますようお願いいたします。

科目(004) 口座番号(2365732) 口座名義(名勝小金井桜の会 会計田嶋清二)

- ★ 多摩信用金庫小金井支店のATMにより振り込み…110円
- ★ 他店の銀行のATMから多摩信用金庫小金井支店口座への振込…220円

なお、今年度後半期の大きな事業としては、小金井桜後継樹復活事業として西屋橋から小金井橋間南側(小金井市市域)の植樹が2021年2月に予定されています。

また、1921年北上展勝地公園開設に伴い名勝小金井桜苗が寄贈され、東北三大桜の一つである「北上展勝地の桜100周年記念イベント」が2021年秋に開催予定になっております。当会ではこれを記念して名勝小金井桜苗5本を今年度中にお届けし、「100周年イベント」にはお邪魔して贈呈式を行わせていただきたいと思いますと考えております。

令和2年度(2020年度)

名勝 小金井桜の会

総会議案書



ケヤキ等の雑木を伐採し昔の面影を取り戻した小金井橋から陣屋橋

令和2年(2020年)9月19日

<http://koganeizakura.com/>

検索：名勝小金井桜の会

★ **コロナ感染状況が収まらないため、今年度の活動は後半期(10月～3月)とします。**

2019年度を振り返って

名勝 小金井桜の会会長 小沼 廣和

1. 小金井市域における小金井桜後継樹の植樹について

2012年から始まった名勝小金井桜植樹事業は、茜屋橋から梶野橋間兩岸に233本(内7本枯死)の後継樹が小金井市域に植栽されました。今後は、小平市等と調整により小金井橋から上流の兩岸並びに梶野橋から下流兩岸は武蔵野市・西東京市との調整により植栽事業を展開していくことになります。

なお、既存の小金井桜古木の枯死等による欠損は小金井市域だけでも762本中205本が過去に伐採されており小金井桜の世代交代が進んでいます。

2. 管理者である東京都教育委員会の小金井桜後継樹植樹について

毎年1回、12月に開催される「玉川上水の保全事業部・区市連絡会」において管理者である都教育庁に後継樹植樹計画の基本的な考え方を尋ねたところ、

■名勝であるサクラ並木の保全のため、この間、欠損箇所の補植を地元市や水道局との役割分担をしながら協力して進めてきている。

■苗木の用意は、保存活用計画等を含めて、小金井市の役割分担。

■その中で、今回、サクラの苗圃として、都立公園を活用できないかということでご意見いただいたが、所管部署の方に確認したところ、東京都の公有財産である都立公園の中でこうした形の取り扱いをするのが規則上難しいという回答を頂いている。

■一方、補植については、私どものほうも管理団体としての立場があるので、こういった苗圃の確保は、地元市、関係局、また関係者の皆様とも協力しながら取り組みを進めていきたい。

との回答であり、小金井市域分は小金井市から提供を受けている小長久保公園内の苗圃で育成している70本は用意できているが、他市の分については東京都又は当該市から苗圃を提供されない限り後継樹の育成は行わないことを例会に於いて決定し、新たな後継樹苗の育成は中止しています。

3. 「超早咲き桜」の植替え要請について

兼ねてより2月中旬に開花する小金井公園桜守の会から寄贈された4本の桜について小金井市および東京都に「植え替え」の要請をしていたが、その回答が下記の通り11月20日付でありました。

貴会から「非ヤマザクラ」として意見の出ている5本のサクラ(N17、N20、N26、S27、S42)につきまして、事実関係を確認するため、樹木医による品種鑑定を行いました。

その結果、5本全てのサクラはヤマザクラの特徴を有しており、**片親はヤマザクラ又はヤマザクラとの交雑種である可能性が高いものでした。**

名勝小金井(サクラ)の指定解説にあるように、「多数ノ天然変種アリテ若葉ノ色、花ノ色、形、大サ花期ノ早晚等区々ニシテ殆ト樹毎ニ異ナルガ如キ觀アリ 賞ニ白山桜トシテ品種ノ多キト変化ノ多キト及大本ノ多キトハ小金井ノ桜ノ特徴トスル所」であることを考えると、5本のサクラも名勝を構成する多様なヤマザクラの一つと判断されますので、伐採や植替えの処置は行わないこととします。

私たちは、この「指定解説」にある名勝小金井桜の定義は、**両親がヤマザクラ同士の自然交配による多種多様なヤマザクラの並木であることが名勝指定の重要な要件である**と考えておりますが、管理者である東京都並びに地元自治体の判断であるので、現時点ではそのように受け止めておきたいと思っております。

名勝小金井桜を次代に適切に継承するために



熟したサクランボ



6月のサクランボ拾い



翌年にサクランボの植付け



台木に古木の芽接ぎ作業



芽接ぎ苗を1年の育成管理



芽接ぎ成功!(成功率30%)



台木の芯を切断



小長久保ファームに移植



3年間の育成管理が始まる



雑草の草刈りが一大作業



ファームで大事に育成管理会議



発芽ら6年かかりやっと植樹へ



植樹された小金井桜後継樹

小金井桜後継樹植栽状況(2020年3月現在)

小金井市域	距離	後継樹植樹総数	枯死数	現存数
南側: 茜屋橋から貫井橋	475m	8本	0本	8本
南側: 貫井橋から小金井橋	550m	7本	0本	7本
南側: 小金井橋から陣屋橋	390m	19本	0本	19本
南側: 陣屋橋から新小金井橋	180m	7本	0本	7本
南側: 新小金井橋から平右衛門橋	380m	17本	1本	16本
南側: 平右衛門橋から関野橋	260m	18本	1本	17本
南側: 関野橋から梶野橋・境陸橋	600m	17本	0本	17本
北側: 小金井橋から陣屋橋	390m	31本	0本	31本
北側: 陣屋橋から新小金井橋	180m	13本	0本	13本
北側: 新小金井橋から平右衛門橋	380m	42本	3本	39本
北側: 平右衛門橋から関野橋	260m	25本	2本	23本
北側: 関野橋から梶野橋	415m	21本	0本	21本
武蔵野地域	185m	8本	0本	8本
総数	4645m	233本	7本	226本

令和元 (2019)年度 活動報告

- 4月 小長久保桜開花調査 (3月中旬～4月中旬)
小長久保ファームでのフィールドワーク (ハウスから移植した苗木に支柱添え)
玉川上水小長久保桜整備活用委員会の現地視察に都教育庁・水道局、小金井市・小平市と同行 (4月5日)
観桜会 (お花見散策&小長久保桜花見の宴 4月7日:真蔵院駐車場)
4月例会 (第142回 4月20日 苗木育成に係る課題と今後の対応 等)
- 5月 小長久保ファームでのフィールドワーク
5月例会 (第143回 5月18日 苗木育成に係る課題と今後の対応(続) 等)
みどりセンターまつりにて小長久保桜写真展 (5月31日～6月2日)
- 6月 小長久保ファームでのフィールドワーク (除草)
令和元年度(2019年度)総会 (6月15日)
学習会「クビアカツヤカミキリの生態と予想される被害」椎名豊勝先生 (29日 参加者20名)
- 7月 小長久保ファームでのフィールドワーク (除草)
7月例会 (第144回 7月20日 小長久保の生育環境(フェンス内)の改善要望 等)
- 8月 小長久保ファームでのフィールドワーク (除草, 水遣り)
新たな育苗ファーム用地確保の都への働きかけについての市への要請 (8月7日)
玉川上水小長久保桜の樹勢調査 (8月17・21・24日)
- 9月 9月例会 (第145回 9月21日 後継樹の苗木の新たな育苗ファームの確保 等)
- 10月 小長久保ファームでのフィールドワーク
小長久保後継樹の芽接ぎ技能講習会(みみコン eco ファーム) に参加
玉川上水・小長久保桜整備活用推進委員会を傍聴 (10月11日)
なかよし市民まつりに出展 (19日～20日)
北上市・小金井市の交流懇親会を開催 (10月19日)
玉川上水落葉回収大作戦第1回実行委員会 (10月26日)
玉川上水整備(雑木整理等)事業説明会に出席 (10月28日)
- 11月 小長久保ファームでのフィールドワーク (除草, 場内清掃等)
11月例会 (第146回 11月16日 今後の後継樹の苗木育成への取組み方針等)
玉川上水落葉回収大作戦を実施 (11月30日参加: 29団体 349人、回収量: 約1万8千ℓ)
- 12月 小長久保ファームでのフィールドワーク
12月例会 (第147回 9月21日 今後の後継樹の苗木育成への取組み方針(続)等)
玉川上水緑保全事業都・区市連絡協議会に出席
- 1月 1月例会 (第148回 1月18日 「超早咲植樹桜」の植替え要望に対する都・市の回答への対応 等)
- 2月 小長久保ファームでのフィールドワーク
上水に移植する後継樹(若木)の小金井市への引渡し (2月12日)
玉川上水・小長久保桜整備活用推進委員会を傍聴 (2月14日)
2月例会 (第149回 2月15日 「超早咲植樹桜」の植替え要望に対する都・市の回答への対応 等)
- 3月 小長久保ファームでのフィールドワーク (移植した苗木の記録・場内清掃等)
玉川上水の小長久保桜の開花状況調査 (3月中旬～4月中旬)
新型コロナウイルス感染症の爆発感染防止対策に協力して例会を含め活動自粛 (3月～5月)

令和元年度(2019年度) 収支決算報告書

[収 入]

2019.4.1~2020.3.31

(単位：円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額	決 算 額	対 予 算	備 考
前年度からの繰越金		594,829	594,829	0	
11	会 費	111,000	96,000	△15,000	
	111 正会員	108,000	92,000	△15,000	@2000円×46名
	112 賛助会員	3,000	4,000	1,000	@1000円×4名
	113 団体会員	0	0	0	
12	寄 付	3,000	0	△3,000	
13	事業収入	301,000	279,815	△21,185	
	131 桜苗木納品代金	176,000	176,000	0	@8000円×22本(2018年度納品分)
	132 学習会参加費	10,000	0	△10,000	
	133 市民まつり売上金	90,000	103,815	13,815	お酒・岩塩・すりこぎ
	134 観桜会参加費	25,000	0	△25,000	
	135 その他の事業収入	0	0	0	
14	雑収入	1	4	3	
	141 預金利息	1	4	3	
合 計		1,009,830	970,648	△39,182	

[支 出]

(単位：円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額	決 算 額	対 予 算	備 考
21	事業費	437,000	253,521	△183,479	
	211 桜苗木育成経費	40,000	3,483	△36,517	名札プレート等
	212 学習会経費	50,000	10,000	△40,000	2019.5.29ウピアカツヤ塾講師謝礼
	213 市民まつり経費	110,000	96,726	△13,274	明細書
	214 観桜会経費	30,000	12,265	△17,735	2019.4.7 会場設営費、敷物・食物購入費
	215 定期パトロール経費	15,000	0	△15,000	
	216 落葉回収大作戦経費	35,000	31,739	△3,261	明細書
	217 小金井桜写真展経費	25,000	21,380	△3,620	写真制作費、審査料交通費、明細書
	218 ホームページ運営経費	80,000	77,928	△2,072	更新手数料、サーバードメイン維持費
	219 会報発行費	52,000	0	△52,000	総会議案書印刷・関係者内郵送費等
22	管理費	95,000	105,608	10,608	
	221 会議経費	10,000	16,470	6,470	例会資料・印刷代等
	222 渉外経費	15,000	0	△15,000	
	223 事務・管理用品経費	40,000	41,970	1,970	コピー用紙・インク・封筒購入費・明細書
	224 通信経費	20,000	45,370	25,370	総会議案書・関係先送料等
	225 保険料	7,000	0	△7,000	落葉回収作戦等のボランティア保険
	226 雑支出	3,000	1,798	△1,202	ゴミ袋・雑費スプレー等
小 計		532,000	359,129	△172,871	
予備費		477,830	0	△477,830	
合 計		1,009,830	359,129	△650,701	

決 算 収 入 - 決 算 支 出 = 次 期 繰 り 越 し 金
 970,648円 - 359,129円 = 611,519円

* 次の事業に係る費用は、さくら基金支出予定に標記

- 1 樹勢調査
- 2 桜に関する調査研究
- 3 桜の害虫等の防除対策
- 4 桜を通じた他自治体等との交流

令和元年度(2019年度) さくら基金支出報告書

2019.4.1~2020.3.31

(単位: 円)

収 入

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
前期繰越基金	515,598	515,598	
さくら基金	0	12,000	2口
預金利息	2	4	
今期繰越基金合計	515,600	527,602	

支 出


科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
1 樹 勢 調 査	30,000	7,839	
樹 勢 調 査	30,000	7,839	食事代・クリックボード代
2 桜に関する調査研究	30,000	0	
DNA解析調査	30,000	0	サンプル提供等支援経費
3 害虫等防除対策	50,000	4,471	
クビアカツヤカミキリ対策	50,000	4,471	殺虫剤等
4 桜を通じた交流事業	100,000	0	
他自治体との交流	100,000	0	北上市・桜川市訪問 交通費・交流会参加費
基金予備費	305,600	0	
支出合計	515,600	12,310	

収 入 - 支 出 = 次期繰り越し基金
527,602円 - 12,310円 = 515,292円

以上の通り報告します

令和2年4月 / 日

名勝 小金井桜の会

会長 小沼廣和 

財務 田嶋清二 

令和1年度決算報告を監査したところ適正に処理されていることを確認しました

令和2年4月6日

監事 三宅 章 

令和2年度(2020年度)役員(案)

令和元年度(2019年度)役員名簿

2019年4月1日～2020年3月31日

名誉会長	石田 精一
会長	小沼 廣和
副会長	鏑山 英次(2019年8月逝去)
副会長	杉山 利男
副会長	日並 洋一
副会長	植竹 隆夫
事務局長	小沼 廣和
事務局	岩間 博昭
事務局	本橋 一夫
財務	田嶋 清二
財務	
監事	三宅 章
監事	
技術顧問	杉山 利男
技術顧問	石田 精一
広報(ホームページ担当)	杉本 和子

令和2年度(2020年度)役員名簿(案)

2020年4月1日～2021年3月31日

石田 精一
小沼 廣和
杉山 利男
日並 洋一
植竹 隆夫
小沼 廣和
風間 裕一
田嶋 清二
三宅 章
岩間 博昭
杉山 利男
石田 精一
杉本 和子

.....

顧問(東京農工大名誉教授)	亀山 章
顧問(東京学芸大副学長)	大石 学
顧問(日本桜の会事務局長)	浅田 信行
顧問(日本花の会主任研究員)	和田 博幸

亀山 章
大石 学
浅田 信行
和田 博幸

令和2年度(2020年度)活動計画

(2020年4月1日から2021年3月31日)

役員会・定例会の開催(毎月)

毎月第3土曜日(4月～9月コロナ禍のため休止)

・午前10時から文化財センターに於いて例会を行い、会の活動状況について“報告・連絡・相談”を行い、情報共有を行い、名勝小金井桜の復活を図るための活動の打合せする。

毎月第1土曜日

・午前10時から「小長久保育苗ファーム」において杉山技術顧問の指導のもと、苗木育成のためのフィールドワークを行う。

名勝小金井桜 定期パトロール

・衰退が著しい既存の名勝小金井桜及び補植した桜苗木の現状につき、定期パトロールによりチェックしレポートにまとめ、管理者である都教育庁並びに小金井市をはじめとする地元自治体に報告すると共に適正な生育管理を行うよう要請する。

「第3回名勝小金井桜観桜会&お花見の宴」の開催(新型コロナウイルス発生により中止)

・4月第1日曜日に関係行政機関・一般市民に呼び掛け名勝小金井桜会員の説明により、「小金井桜観桜会」を開催する。
観桜会終了後、真蔵院十住堂をお借りして、小金井桜お花見の宴を開催し、参加者との交流・懇談を行う。

名勝小金井桜復活の植樹に必要な苗木の育成・管理事業等

- ・玉川上水堤に名勝小金井桜後継樹を植樹するため、小長久保育苗ファームの苗木育成管理を杉山技術顧問の指導のもとに進める。
- ・名勝小金井桜後継樹の水やり・施肥・剪定等が行えるようフェンス内への立ち入り許可を受けられるよう東京都水道局・東京都教育委員会に働きかけ、適正な育成管理を行うと共に下草等の植生変化のモニタリング調査を行う。
- ・関係行政機関に対し、雑木伐採後の植生管理を東京都及び小金井市作成の「実施計画」に明記されている役割分担に基づき定期的な下草刈りの履行を強く働きかける。
- ・雑木伐採後の萌芽更新等による植生管理を東京都及び小金井市作成の「実施計画」に明記されている剪定・伐採等(概ね2年に1度)の履行を強く働きかける。

「クビアカツヤカミキリ撲滅大作戦」(7月から8月)(新型コロナウイルス発生により中止)

・東南アジア地域から侵入されたとするクビアカツヤカミキリ虫は、6月から8月に成虫は交尾した後、サクラ等の樹木に産卵し、孵化した幼虫は木の内部に侵入し2～3年かけて樹木を食い荒らし、枯死させてしまうというサクラ等の樹木の天敵です。埼玉県各市・東京都においてもその被害が報告されている。

環境庁は2018年1月「特定外来生物」に指定し、その撲滅・駆除を呼びかけています。

名勝小金井桜への侵入・被害の報告はまだありませんが、今後の被害が懸念されます。

樹木医に講師をお願いしてクビアカツヤカミキリ虫の生態の学習会を実施し、「樹勢調査」と並行して「クビアカツヤカミキリ撲滅大作戦」を“早期発見・即駆除”を合言葉に実施する。

第19次小金井桜の樹勢調査の実施 (新型コロナウイルス発生により中止)

- ・小金井桜の名勝指定区間の小金井市域区間について毎木樹勢調査を夏の時期に実施し、現在おかれている小金井桜の実態と近年の衰退状況の推移を明らかにしてデータ化を図り、内外に発信する。

さくら基金の募集

- ・多くの市民に「名勝小金井桜の復活」事業の協力・協賛を得るため「さくら基金」の広報活動を積極的に展開し、イベント時における募金活動を実施する。

第23回名勝小金井桜写真展の開催 (新型コロナウイルス発生により中止)

- ・年度毎の「名勝小金井桜」の可憐な姿を記録する意味から一般市民からその年の小金井桜の写真を公募し、「みどりセンター祭り」等で写真展を開催する。
- ・応募写真の中から、優秀作品を表彰して小金井桜の素晴らしさを内外にアピールする

小金井市「なかよし市民まつり」への参加 (新型コロナウイルス発生により中止)

- ・小金井公園で開催される『なかよし市民まつり』に出店し、会の活動についてアピールするとともに小金井桜にゆかりの物品販売を行い、活動費の一助とする。
- ・本会と協力関係にある「北上さくらの会」「桜川サクラサクリプロジェクト」の参加を得る。

第19回名勝小金井桜落葉回収作戦の開催 (11月)

- ・玉川上水堤の落ち葉を、市内の小金井桜復活に賛同する各種団体と協力して回収する「落ち葉回収作戦」を主催することにより、清掃活動の実利とともに桜への関心が薄くなる晩秋に小金井桜及び当会のPRの一助とする。

ホームページの充実

- ・小金井桜の歴史と復活に向けての活動を対外的にアピールするため、ホームページ等の内容を充実させる。

学習会・懇談会・講座等の開催 (適宜)

- ・小金井市の「玉川上水・小金井桜整備活用推進委員会」の学識経験者の協力・指導を得て小金井桜復活の為にあらゆる方策を協働で推進するための学習会を行う。
- ・小金井桜の復活に向けて日本さくらの会・日本花の会等の協力を得て、桜に造詣の深い有識者を講師に迎え、学習会・講演会を行う。
- ・市議会議員をはじめ各種団体役員との懇談会を開催し、小金井桜復活へ向けての理解と協力を図る。
- ・一般都民を対象に小金井桜の歴史と再生に向けての講座・シンポジウムを開催し、会員の加入促進と啓発活動を行う。

NPO 法人 環境再生機構(通称:小金井桜を復活する会)との関係

- ・当会は、NPO 法人環境再生機構(通称:小金井桜を復活する会)と表裏一体の関係で名勝小金井桜を次代に適切に継承するためそれぞれの役割を確認し、協力・協働で活動を展開する。
- ・当会が主催する各種行事については、活動主旨に沿うものについては「共催開催」とし、その役割分担について協議し協力して開催する。

令和2年度(2020年度)収支予算案

[収 入]

2020.4.1~2021.3.31

(単 位 : 円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額	(前年度決算額)	摘 要
前年度からの繰越金		611,519	594,829	
11	会 費	93,000	96,000	
	111 正会員	92,000	92,000	@2000円×46名
	112 賛助会員	1,000	4,000	@1000円×1名
	113 団体会員	0	0	
12	寄 付	0	0	
13	事業収入	218,000	279,815	
	131 桜苗木納品代金	208,000	176,000	@8000円×26本(2019年度納品分)
	132 学習会参加費	10,000	0	@500×20名
	133 市民まつり売上金	*コロナ禍のため中止	103,815	
	134 観桜会参加費	*コロナ禍のため中止	0	
	135 その他の事業収入	0	0	
14	雑収入	1	4	
	141 預金利息	1	4	
合 計		922,520	970,648	

[支 出]

(単 位 : 円)

大 科 目	中 科 目	予 算 額	(前年度決算額)	摘 要
21	事業費	270,000	253,521	
	211 桜苗木育成経費	40,000	3,483	消耗品費、養生管理費
	212 学習会経費	50,000	10,000	講師謝礼、会場費、資料等印刷費
	213 市民まつり経費	*コロナ禍のため中止	96,726	出店料、商品仕入費
	214 観桜会経費	*コロナ禍のため中止	12,265	会場設営費、飲物・食物購入費
	215 定期パトロール経費	15,000	0	消耗品費、報告書作成費
	216 落葉回収大作戦経費	35,000	31,739	資料作成費、消耗品費、保険料
	217 小金井桜写真展経費	*コロナ禍のため中止	21,380	写真制作費、審査員交通費
	218 ホームページ運営経費	80,000	77,928	更新手数料、サーバー維持費
	219 総会等運営経費	50,000	0	総会議案書印刷・開催案内郵送費等
22	管理費	125,000	105,608	
	221 会議経費	15,000	16,470	会議資料作成費、意見交換会会場費等
	222 渉外経費	10,000	0	他団体主催行事等参加費
	223 事務・管理用品経費	50,000	41,970	コピー用紙・インク・封筒購入費
	224 通信経費	30,000	45,370	切手・はがき代、ユー・バック代
	225 保険料	10,000	0	落葉回収大作戦等のボランティア保険
	226 雑支出	10,000	1,798	振込手数料、その他の雑支出
計		395,000	359,129	
予備費		527,520	0	
合 計		922,520	359,129	

★2021年秋に北上市・北上さくらの会主催により「展勝地開設100周年記念イベント」が予定されており、当会から小金井桜苗木5本を記念植樹させて頂く事が決定されており、その苗木を2月中旬に杉山造園から購入し、搬送することになっている。その経費(苗木代・搬送費等)が決定次第「予備費」又は「桜基金予備費」から支出することにする。

* 次の事業に係る費用は、さくら基金支出予定に標記

- 1 樹勢調査
- 2 桜に関する調査研究
- 3 桜の害虫等の防除対策
- 4 桜を通じた他自治体等との交流

令和2年度(2020年度)さくら基金支出予定

2020.4.1~2021.3.31

(単位:円)

収入

科目	予算額	(前年度決算額)	摘要
前期繰越基金	515,292	515,598	
さくら基金		12,000	
預金利息		4	
今期繰越基金合計	515,292	527,602	

支出

科目	予算額	(前年度決算額)	摘要
1 樹勢調査	0	7,839	
樹勢調査	※コロナ禍のため中止	7,839	食事代・クリックボード代
2 桜に関する調査研究	30,000	0	
DNA解析調査	30,000	0	サンプル提供等支援経費
3 害虫等防除対策	0	4,471	
クビアカツヤカミキリ対策	※コロナ禍のため中止	4,471	殺虫剤等
4 桜を通じた交流事業	100,000	0	
他自治体との交流	100,000	0	北上市・桜川市訪問 交通費・交流会参加費
基金予備費	385,292	0	
支出合計	515,292	12,310	

★2021年秋に北上市・北上さくらの会主催により「展勝地開設100周年記念イベント」が予定されており、当会から小金井桜苗5本を記念植樹させて頂く事が決定されており、その苗木を2月中に杉山造園から購入し、搬送することになっている。その経費(苗木代・搬送費等)が決定次第「予備費」又は「桜基金予備費」から支出することにする。

めいしょう こがねいざくら
名勝 小金井桜の会会則

(名称)

第1条 本会は、名勝 小金井桜の会と称する。

(連絡場所)

第2条 本会の連絡場所は、事務局長宅に置く。

(目的)

第3条 本会は、大正13年12月9日付で国の「史跡名勝天然記念物保存法」第1条の規定に基づき名勝に指定された、歴史的文化遺産である小金井サクラのヤマザクラ並木を次代に適切に継承することを目的にする。

更新のための植栽に当たっては、その歴史的背景である奈良県吉野及び茨城県桜川の後継樹・「小金井桜」の後継樹及び岩手県北上市展勝地公園のヤマザクラ「小金井」の後継樹に限定するとともに、「小金井桜」の保存や管理の方法を通して会員相互の交流と親睦を図ることを目的とする。

(活動)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- 1 「小金井桜の復活」を実現するため、「史跡玉川上水整備活用計画」による東京都並びに小金井市、などとの協働
- 2 樹勢低下等により危機的現状にある「小金井桜」の維持・管理
- 3 後継樹の育成・更新のための植栽
- 4 玉川上水周辺の環境整備促進
- 5 定例会、部会の開催
- 6 特定プロジェクトの推進
- 7 「小金井桜」及び「玉川上水」に関する講演会・研究会・交流会の開催
- 8 市民への啓発及び関係団体との連携
- 9 その他本会の目的に沿った活動

(会員)

第5条 会員は、前条の目的に賛同する者をもって構成する。

会員は、会費として年額2,000円を納入しなければならない。また必要に応じて臨時徴取することができる。

会員は、会費の納入を2年続けて怠った場合、その翌年度から会員資格を失う。

(賛助会員・団体・顧問)

第6条 本会に、賛助会員、賛助団体、顧問、を置くことができる。

賛助会員は、年額1口 1,000円以上、賛助団体は、年額1口 5,000円以上納入するものとする。

賛助会員は、会費の納入を2年続けて怠った場合、その翌年度から会員資格を失う。

(役員構成)

第7条 本会に、次の役員を置く。

- 1 会長 1名

- 2 副会長 若干名
- 3 事務局長 1名
- 4 事務局 2名以上
- 5 総務 2名以上
- 6 財務 2名以上
- 7 広報 2名以上
- 8 監事 2名

第2項 本会に名誉会長を置くことができる。

(役員を選出)

第8条 名誉会長、会長、副会長、事務局長、事務局、総務、財務、広報、監事は、総会において選任する

(役員職務)

第9条 役員職務は次のとおりとする。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- 2 副会長は、会長を補佐する
- 3 事務局は、会務の執行を総括し、事務局を分掌する。
- 4 総務は、事務局を補佐し、庶務全般を分掌する。
- 5 財務は、財務を統括し、会計事務を分掌する。
- 6 広報は、本会の広報全般を分掌する。
- 7 監事は、本会の会計を監査する。

(任期)

第10条 役員任期は、1年とし、再任を妨げない。

(運営)

第11条 本会は、年一回の総会と定例会を中心に運営する。その他、必要に応じて役員会、部会、実行委員会、ワーキンググループを開催する。

(会計)

第12条 本会の経理は、次のとおりとする。

- 1 会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日で終わる。
- 2 運営の経費は、会員の会費およびその他の収入等をもって充てる。
- 3 会計年度終了後、監事により監査を受けたのち総会において会計報告を行う。

(施行細則)

第13条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改正)

第14条 本会則の改廃については、総会出席者の三分の二以上の賛成を要する。

付則

この会則は、平成19年6月16日から施行する。

付則

平成21年4月18日総会にて、第7条の役員数を〇〇名以上に改正。

平成21年4月18日総会にて、第12条の4「年額1口1000円以上」に改正。

平成22年4月10日総会にて、

第4条：項目順序を変更し、2項目「小金井桜の復活」を実現するため、・・・」及び「特定プロジェクトの推進」を追加、5項に「部会」を追加。

第6条：「顧問」を追加。

第7条：「名誉会長」「事務局長」「広報」を追加、「庶務」を「総務」、「会計」を「財務」に名称変更。

第8条：「名誉会長」「事務局長」「広報」を追加、「総務」「財務」に名称変更。

第9条：項目順序を変更し、6項「広報」を追加並びに4・5項は「総務」「財務」に名称変更。

第11条：「部会」「実行委員会」「ワーキンググループ」を追加。

平成26年5月17日総会にて、事務局長の交代が承認されたことに伴い、第2条の連絡場所住所を変更。

平成27年5月16日総会にて、大久保慎七氏の死去に伴い名誉会長職を廃止。

平成28年5月21日総会にて、第12条：3、4項目の会費納入規定を会員の義務条項として第5条、第6条に移し、合わせて会費納入を怠った場合の会員資格喪失規定を追加。

【総会承認後追記案】

平成30年5月19日総会にて、石田精一氏の就任に伴い名誉会長職を復活し、第7条、第8条に関連事項を記載。第2条の連絡場所について住所表記を「事務局長宅」に変更。

(まちの記憶) 名勝小金井桜 東京都小金井市

2020年5月18日(朝日新聞関東甲信越版夕刊)

■ヤマザクラ並木、にぎわい戻れ



「名勝小金井桜」の復活プロジェクトで、小金井橋の下流は見通しが良くなった。

「名勝小金井桜の会」の小沼廣和さん(右)と杉山利男さん



東京・小金井の桜と言えば、思い浮かぶのは都立小金井公園だろう。しかし、江戸時代から昭和半ばにかけては違った。玉川上水沿いのヤマザクラの並木「名勝小金井桜」のことだった。戦後は衰退しながらも280年に及ぶ歴史がある、この「名勝」をかつてのような姿に復活させようというプロジェクトが小金井市で進んでいる。

「名勝小金井桜」は全長約6キロ。小平、西東京、武蔵野の各市にも及ぶ。JR武蔵小金井駅から大通りを北へ20分ほど歩くと、玉川上水にかかる小金井橋に着く。そこからの風景には、「小金井桜」の過去と未来が交差する。

下流には、ケヤキの大木などを伐採した堤が広がり、植樹したばかりの細いヤマザクラの姿がちらほら。水路がまっすぐに光って見える。

「昔は兩岸から桜が覆いかぶさり見事だった。あの景色を子孫たちに見せたいね」。復活に取り組む「名勝小金井桜の会」の技術顧問、杉山利男さん（86）が言う。代々造園業を営む桜の専門家だ。

江戸時代、この小金井橋付近の様子を活写した絵師がいる。「東海道五十三次」の歌川広重。杉山さんの思い出にも重なる錦絵を残した。

「小金井桜」の歴史は古い。8代将軍徳川吉宗の時代の1737（元文2）年、村おこしの一環で奈良・吉野、茨城・桜川からのヤマザクラが植えられたと伝わる。広重が江戸近郊の名所として描いたのはそれから100年近く後。1889（明治22）年には、小金井の花見に合わせて甲武鉄道（現JR中央線）が開業。大正に入り、植物学者の三好学が、国内有数のヤマザクラの集積地だと評価し、1924（大正13）年に国の名勝に指定された。

しかし、花見の名所だったのは戦後しばらくまで。五日市街道の拡幅などで環境が悪化。一時は水の流れも止まり、堤には柵が出来た。伝統を引き継ぐように整備されたのが、小金井公園だった。

名勝指定時に1400本あったヤマザクラは、一時は700本ほどまで減った。「手を入れたくなる木もあるけれど、色んな関係で難しくてね」と杉山さん。名勝の桜は国の文化財であり、玉川上水を所有する都が管理しているからだ。

復活への転機は2003年、玉川上水の国史跡への指定。都が、区間の重なる「名勝小金井桜」を含めた整備を打ち出したのだ。寿命から後継樹を植える必要もあった。市民から「環境が変わるのでは」と懸念も出たが、市などが説明会を開きながら「復活プロジェクト」は進んだ。

「この名勝はヤマザクラで並木を作ったことがオンリーワン。その伝統は保ちたい」と、「桜の会」会長で元市職員の小沼広和さん（71）。江戸からの系譜を継ぐ母樹から苗木を育て、この10年で200本余りが植えられてきた。

*

岩手県北上市との思わぬ縁も力になった。00年、当時の会長だった石田精一さん（90）に「北上に小金井の桜が残っているらしい」と連絡が入った。北上市立公園「展勝地」が大正期に開園する際、多くの苗木が贈られていた。「北上川を眼下に望むパワースポットのような場所に植えられています」と北上観光コンベンション協会専務理事の八重樫信治さん（61）。

交流が始まり、07年11月、苗木が86年ぶりに小金井に帰郷。小金井橋そばに「友好の桜」として植えられた。来年は展勝地百周年。小金井から再びヤマザクラが贈られる予定だ。苗木を育てているのは杉山さんだ。「桜が咲くために昔からたくさんの方が関わり、努力をしているんだ」。苗木が見頃になるのは30～40年後のことだ。（西正之）

■市史で紹介、一巻まるごと

「小金井市史」には、「資料編 小金井桜」という巻がある。幕末からの地誌、紀行文、随筆、詩歌、碑文、近代以降の新聞記事、桜の研究・保護に関する文書などを収録し、約900ページに及ぶ。2008～18年度に刊行した市史（全6巻）で最初に出た。「桜が市の象徴であることの証しです。一つのものに特化した市史は、全国的にも珍しいでしょう」と市教育委員会の高木翼郎（よくろう）学芸員（38）。

紀行文や新聞記事からは、花見の様子や当時の世相が見て取れる。戦時中の1942年3月の記事には「本年の花見は当然の自粛を看板にしてあるだけに昼酒や仮装の禁止は勿論（もちろん）、たとひ持参酒でも泥酔した者や風紀を乱す者は時局不認識者として容赦なく警察署で取り締まる」などとある。収録史料は52年までで、「名勝」がにぎわった時期が反映されているようだ。

市が収集した膨大な資料の一部は、毎年春に浴恩館公園内の市文化財センターで展示してきた。市史では画像資料のほとんどを割愛せざるを得ず、当時の編集担当者が巻末に「いずれ図録集として発行したい」と書き残した。「その思いは私たちも受け継いでいます」と高木学芸員。資料の分類などの下準備を進めているという。